資料提供

令和元年10月24日（木）
照会先：保健福祉部疾病対策課　健康危機管理対策室
担当者：技佐兼室長補佐（総括）　深谷　均
連絡先：029-301-3233（内線：3217）

日本紅斑熱患者の発生について

10 月 21 日，土浦市内の医療機関（病院）から土浦保健所へ，入院中の患者が日本紅斑熱の疑いがあるとして連絡があり，10 月 23 日に県衛生研究所で検査を実施したところ，日本紅斑熱陽性と確定しました。

なお，当該患者は，10 月 21 日夕方に亡くなられており，感染源である病原体を保有するマダニに咬まれた日時，場所などは不明です。また，本県で日本紅斑熱による死亡例は初めてです。

日本紅斑熱は，病原体を保有するマダニに咬まれることで感染します。マダニは，春から秋にかけて活動しますので，山林や草むらなどマダニが多く生息する場所に入る場合は，長袖，長ズボン等肌の露出を少なくし，ダニに咬まれないように注意してください。

１　患者の概要：73 歳（男性），土浦市在住

２　症　　状：発熱，手足の発疹，肝機能異常　等

３　そ　の　他：腹部に刺し口あり

４　経　過　等：

10 月 12 日　手足に発疹。
10 月 15 日　39.5 度の発熱。
10 月 16 日　土浦市内の診療所を受診し，同市内の病院を紹介され受診。
10 月 17 日　同病院に入院。
10 月 19 日　ショック症状を呈し，意識レベルが低下。
10 月 21 日　治療継続するも夕方死亡。
10 月 23 日　県衛生研究所の遺伝子検査で日本紅斑熱陽性と判明し，同病院から土浦保健所に発生届。

患者及び患者家族等の個人情報については，プライバシー保護の観点から本人等が特定されることのないよう，格段の御配意をお願いいたします。

【茨城県感染症情報センターホームページＵＲＬ】
http://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/index.html

○　日本紅斑熱とは
原　　因：日本紅斑熱リケッチア（Rickettsia japonica）
潜伏期間：2～8 日間
症　　状：感染すると，2～8 日後に頭痛や全身の倦怠感，また，高熱とともに紅色の発疹が手足等に多発します。
治　　療：抗菌薬の投与
感染経路：日本紅斑熱リケッチア（Rickettsia japonica）を保有するマダニの咬傷（ヒトからヒトへの感染はありません。）
感染症法：四類感染症，全数把握疾患（診断を行った医師は保健所に届け出ることになっている）

－　県からのお願い　－

１　マダニに咬まれないようにしましょう！

・マダニは，民家の裏山や裏庭，畑，あぜ道などにも生息しています。また，野ウサギやイノシシなどの野生動物が出没する環境に多く生息しています。

・ハイキングや農作業等の野外活動のときには，長袖，長ズボンを着用し，腕，足，首など肌の露出を少なくして，シャツの袖口やズボンの裾からマダニが侵入しないようにしましょう。

・マダニに対する忌避剤が市販されており，マダニの付着を防いでくれますが，完全に防ぐわけではありませんので，様々な防護手段と組み合わせて対策を取ってください。

２　野外活動後は，マダニに咬まれていないか確認しましょう！

・野外活動後は，上着等にマダニが付着している可能性があるので，ガムテープ等を使って取り除くなど，家の中に持ち込まないようにしましょう。

・シャワーや入浴でダニが体に付着していないか確認しましょう。

・吸血中のマダニを発見した場合は，無理に取り除こうとせず，皮膚科等の医療機関で適切な処置を受けてください。

・マダニに咬まれたら，数週間程度は体調の変化に注意し，発熱等の症状が認められた場合は，医療機関を受診してください。

【参考】

日本紅斑熱患者発生状況（全国値：2019.10.13 現在）　　単位：人

	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
全　国	171	175	241	215	277	337	303	224
茨城県	0	0	0	0	0	0	0	2（1）※

※2019 年には今回の事例を含む。
括弧内は死亡患者数を再掲。

厚生労働省

ダニ対策

「ダニ」にご注意ください

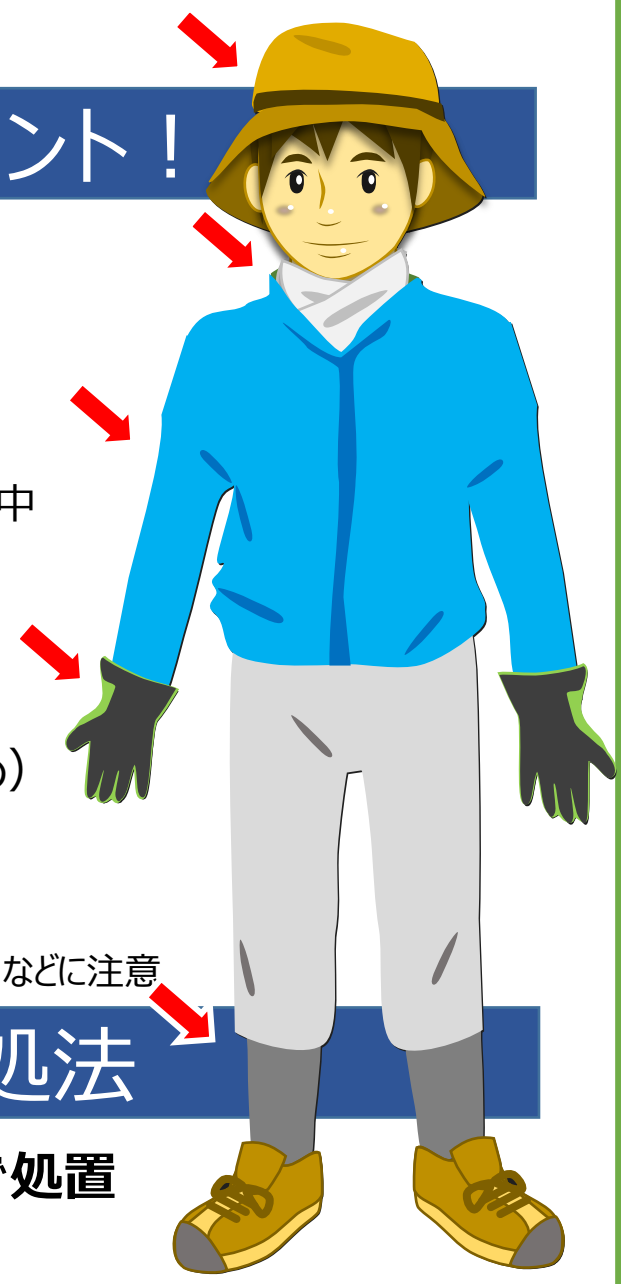
山や草むらでの野外活動の際は、ダニに注意しましょう

春から秋にかけてキャンプ、ハイキング、農作業など、山や草むらで活動する機会が多くなる季節です。

野山に生息するダニに咬まれることで

重症熱性血小板減少症候群(SFTS）、ダニ媒介脳炎、日本紅斑熱、つつが虫病、ライム病など

に感染することがあります。



ダニに**咬まれない**ためのポイント！

- **肌の露出を少なくする**

  ⇒帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等

- **長袖・長ズボン・登山用スパッツ等を着用する**

  ⇒シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中

- **足を完全に覆う靴を履く**

  ⇒ サンダル等は避ける

- **明るい色の服を着る**（マダニを目視で確認しやすくするため）

＊ 上着や作業着は家の中に持ち込まないようにしましょう

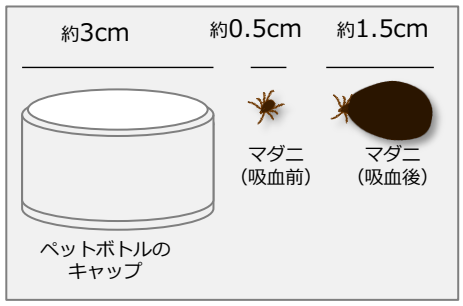
＊ 屋外活動後は入浴し、マダニに咬まれていないか確認をしましょう

特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部（髪の毛の中）などに注意

ダニに**咬まれたとき**の対処法

- **無理に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科など）で処置**（マダニの除去、洗浄など）をしてもらいましょう。

- マダニに咬まれた後、**数週間程度は体調の変化に注意**をし、発熱等の症状が認められた場合は**医療機関で診察**を受けて下さい。



【受診時に医師に伝えること】

①野外活動の日付け、②場所、③発症前の行動

ダニ媒介感染症（厚生労働省）

各地域のダニ媒介感染症の状況については各自治体HPも参考にしてください

平成29年４月